

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	平田 豊
所属機関名	学生支援機構 情報基盤センター
職位	教授
在籍年	4 年

教育の責任

情報リテラシー教育においては、大学生として PC、スマートフォン、学内システムに密接に関わる機会が増加するとともに、社会人となった時の基礎技能として必須であることから、情報セキュリティの基本についての教育は極めて重い責任と考えている。

社会を読みとく A 教育においては、自立する成人としての大学生活、更に近い将来社会に巣立つに当たり、社会における様々な古典的犯罪、組織犯罪（暴力団）問題、情報犯罪、交通事故、薬物問題、性犯罪、人間関係のトラブル、近年の匿名・流動型犯罪に関する闇バイト、カルト宗教問題など、社会の闇に潜む罠とは何か、その誘惑に打ち勝つ考え方、巻き込まれたときに自らが対処できる方法などを身につける教育を責任と考えている。

教育の理念

社会において生き抜く上では、知識に加えて知恵が必用であると考えている。当然、知恵を発揮するためには知識は不可欠である。学問によって知識を蓄え、物事を捉え考えて、どのように実践できるようになるかが重要と考えている。

このような考えをベースに、更に社会の表と裏を知ること、日本人感覚で言えば世間を深く知ること、自分がどうあるべきかを常に考え、自分の腹に落とす事で、自然な行動、積極的な行動に結びつく、生き抜く力を身につけさせることを理念として教育に携わっている。

教育の方法・方針

申すまでもなく、大学における学びは、社会に巣立つ最終教育機関であり、社会においては自らが考え、学び、実践して成長していかなければ、社会及び属する企業等からの期待には応えられない。

そのため、学生には自分を振り返り、弱点と強みを見つめる目を養い、実践することが最も求められると考えている。そのために授業の課題レポートを自分で考え、解答を記述する方法を用いている。

植物に例えるならば、学生は、発芽した苗であり、どのような肥料を与え、日に当て水をやれば、社会に出て一人で成長できるかと言う点を意識して、自ら成長できる教育を方針としている。

教育の成果

情報リテラシーについては、毎回の課題で一定の効果が認められたが、未提出者も一定数いる。最終の実技テストでは厳しく採点し、必須科目であるため、翌年も履修することになる学

生もいるが、翌年には目の色を変えて本気で取り組み高得点を得ている。

社会を読みとく A、政治学では、テーマ別に自らが陥る罠を想定し、自らが問題を作成して、どのように考え、行動し、罠にはまったときはどうすれば立ち直れるかをレポートで作成させるため、学生は「自らの弱点」を本気で考えたレポートを提出している。学生の中には、「このような課題を与えていただき、自分を振り返る切っ掛けになった」と感謝を述べる学生がいることは成果と考えている。

今後の目標

教育の理念に基づく授業のほか、正課外活動として、犯罪被害者支援を目的として、岡山県警、岡山県公安委員会指定公益社団法人被害者サポートセンター岡山、岡山北西ロータリークラブと共に、県内 11 大学で構成する「あした彩」愛好会及び社会課題解決イベント団体「とり.OUS」愛好会の顧問を通じて、社会との関わりを持たせるとともに自発的に社会奉仕精神を育む心と行動の教育を目標としている。

また、ボランティアセンター教員として、ボラビト（学生ボランティア団体）の支援も行っている。

このように、学生ひとりひとりが成長を実感でき自信を持って社会に巣立てるように、建学の理念の通り、技術者として、社会人として社会に貢献できるバランスを持った人材育成を目標にしている。

根拠資料

- ・ シラバス
- ・ パワーポイント資料
- ・ 授業課題（自らが問題を考えるレポート）
- ・ 外部講師（犯罪被害者）講演と講演感想レポート
- ・ 授業アンケート（2023～2025）